

市「そんな事を云はないで今一度女房にしてやる」と云つてねぐんなの」「イヤもう澤山だ、男の嫁なんが来られては居らない」

市「止じやがれ、それから自然齊の小父さんにもう云つてこんな何れの中に遇ふ時もあるがそ時はなんまりと禮するからを」

市「ハイ長いました、確かに来られたもの凡そ二十人余り申傳へまくから早く歸りを願いたいもので」

市「何を云アガる、來るまではやいの」で詰ぎがつて、今度お蔵三郎は婦にする事に就いて見つける、「云々がる事、此の小屋へ暴れこんで慶祝しにするよ」

市「何を云アガる、來るまではやいの」

市「呼ぱりながら眞一文字に詰けつけた、早く引揚げておくへな

○「親分、此奴等は小僧云て引受

○「それ、早く行つて見る。殊によろこんがるが、慶祝の間違ひかも知れぬ」

農家の心得べき
農村經濟から見た廃肥と堆肥(二)

肥料の知識

農業欄

手へ黒藏の固めて市兵衛は金右エ門が睨み付ける。そんな怖い顔をなして

小「市さん、そんな怖い顔をなして

いでくれ、私が此の通り頼むから」

源「オ、昔な來たが、相手は武士

だ油断するな」

その後つて注意する、市兵衛は

こんな事になるだらうと握ての握

悟の上ですから、腰中にのんで居

たあひ首を出し近よろ者は誰い

彼の容赦なく突き廻してゐる

突然然賀の門人の一人、年頃は

廿三四歳の色の白い好い男、額に刀

飾があるそれが店先の煙火、市兵

衛の眼に映じた、此奴が源七

の二男で吉之助ではあるまいか

うつたから

源七共に店を出る、表に立つてゐたのは金田の門人共、先生の

家度がらこんな事になつたと、ヤ

ラを聴奇り、二人を取巻いた所

今まで囁呴のやうに黙つてゐた白

然齋、聽付けて來て

自「ソレ皆、二人を討つてし

まへ」

と命じた、「向なしやがる」と云七

に市兵衛ヒラリと体を交換して新

詮があると、

市兵衛は相手の難にある刀傷な

見、

市兵衛は相手の難にある刀傷な

詮があると、

市兵衛は相手の難にある刀傷な